

まちの話題

宝くじ助成事業でDVD

町では、「通潤橋のできるまで」という3Dビデオを制作しました。コミュニケーションの健全な発展を図ることを目的としたコミュニケーション助成事業を利用し、農村文化の重要性と必要性を伝え、活力ある地域づくりをめざすために制作されました。この事業は、宝くじ普及広報事業費を財源として、財団法人自治総合センターが行っています。このビデオは、通潤橋資料館での放映のほか、各種地域づくり活動への貸し出しも行います。



1時間の国際交流

3月1日、清和中学校で、韓国と「インターネット中継」が行われ、2年生21人が1時間の国際交流を行いました。相手は、2月まで熊本市国際交流会館でインターンとして働いていた韓国の大学生3人。事前に、韓国について学習した生徒は、インターネットを利用して1時間の生中継を、英語・韓国語・日本語を駆使して会話を楽しみました。さらに、文楽や清和トマト、天文台についても紹介し、「いつか清和へ遊びに来てください」とアピール。参加した生徒は「違う国の言葉を知れば、新しい世界を見ることができると感想を話しました。」



ネットで国際交流中

ひなまつりもちつき大会

浜B地区「ひな祭りふれあい餅つき大会」が2月26日、矢部小学校で行われました。この餅つき大会は、浜B自治振興区の世代間交流を図る目的で毎年開催されています。この日もお年寄りから子どもまで100人以上が参加、石うすときねをつかった昔ながらのもちつきをみんなで行い、おいしい餅ができました。つきあがった餅は、持ち帰られ、各家庭でその味を堪能しました。



おいしいもちができました。

ペットボトルキャップ引き渡し

清和小学校の児童が、自分たちで集めたペットボトルのキャップを、山都町商工会青年部に渡しました。この取り組みは「エコキャップ運動」。ペットボトルのキャップをリサイクルメーカーで再利用、その売却代金が「エコキャップ推進協会」を通じ、NPO法人「世界の子どもにワクチン」を日本委員会」に送られ、世界の子どもたちにワクチンが届きます。キャップ4kgで一人分のポリオワクチンになり、商工会青年部では、熊本県商工会青年部の一員としてこの事業に取り組んでいます。清和小学校で集めたキャップは48kg。児童会役員6人が後藤春樹部長へ手渡しました。



後藤部長(右)にキャップを渡す清和小の6年生

鹿本農高が先進地視察で山都町へ

3月5日、山鹿市にある鹿本農業高校の食品工業科1年生36人がなかはた農園(白小野)を訪れました。これは、同校の1年生を対象とした先進地視察の一環で、この視察を2・3年生での学習に繋がります。生徒はまず、旧下矢部東部小学校で、同農園の中島由博さんからイチゴの栽培や加工、農業経営に関する講話を受けました。その後の実地研修はイチゴの収穫体験です。なかには農園はこの日、今シーズンのイチゴ狩りオープンの日で、生徒らは時間いっぱいみずみずしいイチゴを口いっぱい頬張っていました。



収穫というより食べるほうが多かったようです。

学校保健委員会研修会

学校保健委員会の研修会が2月10日に矢部保健センター千寿苑で行われました。講演会では、「子どもに語るいのち」と題し、鹿児島国際大学短期大学部教授の種村エイ子氏が、全国の学校で行っている「いのちの授業」について話しました。図書館の司書の経験を活かし、本を読み聞かせながら、子どもたちに命について押し続ける種村さん。自らががんの闘病経験を交えた言葉は、参加者の心に深く刻まれました。その後、学校保健委員会養護部会の取り組み報告も行われました。



種村エイ子さん

清和つ子ふるさと祭り

2月26日、清和小学校で「清和つ子ふるさと祭り」が開催され、児童が地域の方々や保護者と一日ふれあいました。午前中は、公民館支館が主催するふれあい活動。児童85人が低・中・高学年に分かれ、すもゝ大会・グラウンドゴルフ・突き鉄砲づくりに挑戦。運動場に児童と地域のみなさんの笑い声が広がりました。午後は児童の発表会。体育館のステージでは、学年ごとに今年学んできたことを発表しました。5年生の発表は、アイガモ農法で取り組んだこだわりの米作りについて劇を披露しました。



5年生の劇のようす

上益城援農ボランティア

小雪の舞う2月19日、下名連石にボランティアが集まり、農作業を手伝いました。これは、上益城地域振興局農業普及振興課が行う「かみましき援農ボランティア」。過疎地で、田畑を守る人々の農作業を助ける(援農ボランティア)を県内から募集し、里山を支えようとするもので、今回で4回目、山都町では柚木地区について2回目です。今回は熊本市などから16人が参加、シイタケ駒打ち、荒れた竹林の伐採、栗園の除草など5時間に取り組みました。



厳しい寒さの中、シイタケ駒打ちを黙々と作業

愛林駅伝

第57回愛林駅伝競走大会が2月18日に開催されました。矢部、清和、蘇陽の3中学校と町外4中学校から17チームが参加、千寿苑をスタート・ゴールとする。周回コースで健脚を競いました。レースは序盤から甲佐中Aがリードする展開。一時矢部中に首位を譲りましたが、すぐにその座を奪い返し、その後は安定した走り続け、トップでゴールしました。町勢では矢部中Sが3位に入りました。矢部中・清和中・蘇陽中からは複数のチームが参加し、大会を盛り上げました。



雪が舞う中のスタート

小学生が清和文楽鑑賞

農村文化として受け継がれてきた「清和文楽」を、町の宝として子どもたちに触れてもらおうと、町内全小学校の6年生と清和小学校全児童を対象にした鑑賞会が、3月7日、清和文楽館で開かれました。この鑑賞会で、清和小6年生が1学期から練習を重ねてきた「傾城阿波の鳴門」を披露。素晴らしい太夫の語りと三味線に合わせて、巧みに人形を操り、物語の情感を表現しました。その後、全員で保存会の方々による「日高川入相花王」を鑑賞。最後に芝生広場で実際に人形に触れ、地域の宝をその手に感じていました。



見事に清和文楽を披露した清和小6年のみなさん